

プロジェクトシート

重点戦略	未来につなぐ環境戦略
プロジェクト	環境を起点とする活力の創出プロジェクト

1 プロジェクトの概要

目標	地域資源を活かしたエネルギーの地産地消の促進や、環境に関連する産業の育成、集積により、地域の活力を向上させます。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ☆環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦 ☆環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり ☆持続的発展が可能な循環型社会の形成促進

2 成果指標等の状況

成果指標	基準 ・全国平均 ・全国順位	H21	H22	H23	H24	H25	H26	目標 H27
①太陽光発電システムの設備容量	5.6万kW (H21)	5.6 万kW	7.6 万kW	10.4 万kW	18.0 万kW	42.5 万kW		47.3万kW*
出典：県環境森林部調べ	達成見込	—	☔	☹️	☀️	☀️		
②産業廃棄物排出量	420.8万t (H20)	392.6 万t	383.3 万t	391.6 万t	397.2 万t			418.0万t
出典：県環境森林部調べ	達成見込	☀️	☀️	☀️	☀️			

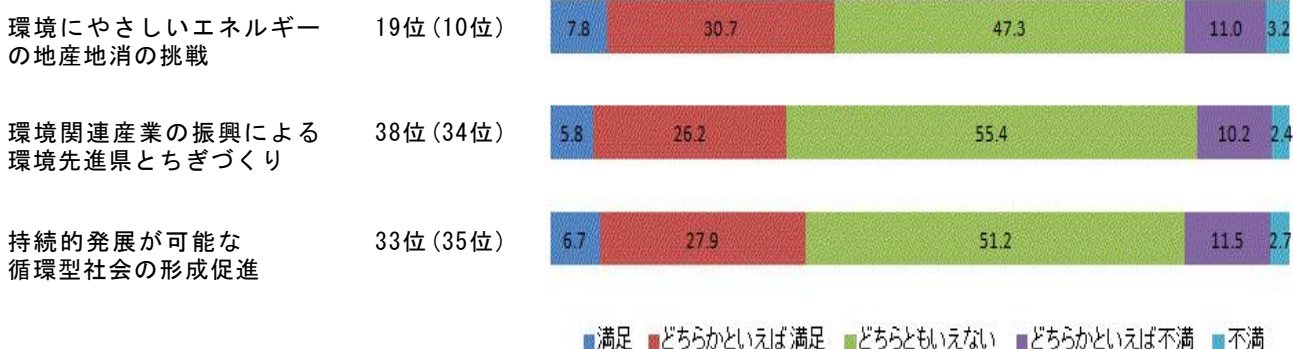
※ 成果指標①の目標値は、「とちぎエネルギー戦略」の策定（平成26年3月）に伴い変更しました。（34.0万kW → 47.3万kW）

（注）目標達成見込の判断 ☀️ : 概ね順調 ☹️ : やや遅れている ☔ : 遅れている

【成果指標の分析】

- ① 住宅用太陽光発電システムやメガソーラーの設置を促進したことにより、太陽光発電システムの設備容量は大幅に増加しており、目標達成に向けて概ね順調です。
- ② 多量排出事業者を対象とする排出抑制の取組への支援や循環資源の有効利用の促進により、目標を達成しています。

【平成25年度県民満足度調査結果】



※順位は、「満足」及び「どちらかといえば満足」と回答した割合をもとに順位付けした。（ ）内は前年度の順位。

3 主な取組成果と課題

【成果】
☆環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦
○再生可能エネルギーの利活用の促進
<p>《主な取組》</p> <p>①地域の創意工夫により取り組む再生可能エネルギー利活用への支援 庁内検討会や有識者会議において、再生可能エネルギー利活用について、具体的な導入方策を検討し、取組に着手するとともに、メガソーラーマッチング事業については、新たに8箇所です業候補者を決定しました。 また、県有施設の屋根貸し事業において、新たに38施設の事業者を決定しました。さらに、再生可能エネルギー発電施設を設置する中小企業等への低利融資等を実施しました。</p> <p>②農山村地域における太陽光や小水力発電などの再生可能エネルギー利活用の研究 スマートビレッジモデル研究事業において、電力網に接続せず単独で稼働可能な蓄充電施設を全国で初めて宇都宮市の小水力発電実証施設に設置するとともに、県南地域の農業用水路における小水力発電の適地調査を実施しました。 また、規制の特例措置等を活用した小水力発電事業を行う「栃木発再生可能エネルギービジネスモデル創造特区」において、実証施設を設置し、発電効率や施設管理のための調査を実施しました。</p>
☆環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり
○環境関連の新技术や新製品の開発促進
<p>《主な取組》</p> <p>①環境対応型自動車に関する技術開発への支援 超小型モビリティを購入し、「超小型モビリティ研究セミナー」を開催しました。 また、「燃料電池自動車（FCV）研究セミナー」を開催しました。</p> <p>②環境関連企業誘致の推進 企業立地・定着促進セミナー等における知事のトップセールスや、県、県内金融機関、インフラ関連企業により構成する「とちぎ企業立地推進戦略会議」において、合同企業誘致活動に取り組みました。</p>
○事業者による環境への負荷を減らす取組の促進
<p>《主な取組》</p> <p>①二酸化炭素排出削減等に取り組む中小企業への支援 企業の節電省エネやCO₂削減を支援するため、連絡会議やセミナーを開催しました。</p> <p>②環境保全に関する優れた取組を行っている事業者等の表彰 温室効果ガスの削減に取り組む事業所を「エコキーパー事業所」として認定（9件）するとともに、特に優れた6事業所を「マロニエECO事業所」として表彰しました。</p>
☆持続的発展が可能な循環型社会の形成促進
○バイオマスの総合的な利活用の促進
<p>《主な取組》</p> <p>①下水道浄化センターにおけるバイオガス発電施設の整備促進 県央浄化センター等において、バイオガス発電設備工事を実施するとともに、秋山川浄化センターにおいて、PFI導入可能性調査を実施し、PFIの導入が可能であることを確認しました。</p>
○森林資源の循環利用
<p>《主な取組》</p> <p>①森林施業と林業経営を支えるプランナーなどの人材育成への支援 集約化による効率的な林業を推進するため、各種研修を実施し、森林施業プランナー（12名）、路網作設オペレーター（4名）、フォレストワーカー（18名）など、専門的かつ高度な知識や技術を有する人材の育成を進めました。</p>

②県産出材の県内及び首都圏への販売促進
首都圏における商談会や全国規模の住宅資材展示会への出展を通して、とちぎ材の販路拡大を進めています。

③間伐材をはじめとした県産出材のカスケード（多段階）利用の促進
森林資源のフル活用を推進するため、搬出間伐における支援（造林事業1,437ha、森林再生間伐378ha）、木材の加工流通施設整備に対する支援（18箇所）等を進め、木質バイオマスのマテリアル（材料）利用からエネルギー（燃料）利用に至る幅広い利活用を推進しました。

○廃棄物の発生抑制、再使用、再生利用（3R）等の取組促進

《主な取組》

①産業廃棄物の多量排出事業者が行う排出抑制の取組への支援
多量排出事業者を対象に、排出抑制に取り組む先進企業の取組を講演会で紹介し、排出抑制の支援を進めました。

【課題】

☆環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦

○再生可能エネルギーの利活用の促進

＜熱エネルギーの有効利用＞

経済の成長に伴いエネルギー需要の増加が見込まれる中、再生可能エネルギーの発電利用に加え、熱活用を進めることにより、エネルギー利用の効率化と地産地消をさらに進める必要があります。

☆持続的発展が可能な循環型社会の形成促進

○森林資源の循環利用の促進

＜林業の供給体制・需給連携の強化＞

県産木材の需要拡大を創出するとともに、供給体制を強化し、雇用の拡大と農山村地域の活力につながる安定的な需給連携体制を確立し、林業・木材産業を成長産業に発展させる必要があります。